

単
元
名

情報の技術 ～情報の真偽を確かめよう～

教科書出版社名 (開隆堂)

○ 中学校 (1～3) 年 教科等 (技術科)

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

(教科等で付けたい力)

探究的な活動などを通して、次の事項を身に付けさせる。

ア 情報の表現、記録、計算、特性等の原理・法則と、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報を利用するための仕組みについて理解することができる。

イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えることができ、表現することができる。

(学校図書館等の活用で付けたい力)

複数のメディアからの情報を比較したり、目的に応じて集めた情報を整理したりしながら、根拠を持って、情報の真偽を判断する力。

○ この単元における学校図書館を活用した情報活用能力の育成に向けて

- 情報収集…目的に応じて資料やタブレット端末で調べ、必要な情報を集める。
- 整理・分析…課題を解決するために調べたことをワークシートにまとめ、自分の考えを整理する。
- まとめ・表現・発信…調べた情報や課題に対する解決策など、整理した情報について根拠をもとに他者に伝え、学習した成果を共有する場を設定する。

○ 学習の展開 (全 10 時間)

第 1 時	探究活動の流れについての説明を聞き、班で活動計画表を作成する。
第 2 時☆ (本時)	ネット上や生成 AI による情報の真偽を確かめる。
第 3 時	テーマに対する情報を収集する。 テーマ「SDGs の目標と関連付けて 2030 年の未来を提案しよう。」
第 4 時	メディアについて理解する。
第 5 時	情報の表現と伝達について理解し、その技能を身に付ける。
第 6 時	知的財産権・著作権について理解する。
第 7 時	集めた情報を整理・分析し、どのように集めた情報を表現するか計画を立てる。
第 8・9 時	プレゼンテーションとその他の情報の表現を用い、発表の準備をする。
第 10 時	テーマについて発表大会を行う。

(本時 2 / 10 時)

☆学校図書館等活用 (本時) の学習

本時のねらい

ネットや生成 AI による情報に対して、根拠をもって真偽を判断できる。

学習展開

時間 (分)	主な学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1. 本時の活動の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ネット上や生成 AI による情報の真偽を確かめよう。</div>	
展開 ①20分	【情報活用の力】 2. プリントに書かれている、ネット上の情報の内容と生成 AI の解答を紹介する。 3. 班で 4 つの情報についての真偽をネットや書籍を使って調べる。 ※「真」の場合はなぜ「真」と判断したか 「偽」の場合はどこが間違っていて「偽」と判断したか それぞれ判断の根拠をワークシートに記入する。	・ 4 つの情報を班で分担して調べてもよいし、1 つずつ班員で調べていくのもよいと伝える。分担して行う際は、必ず時間内に班での共有も行うように事前に説明しておく。
展開 ②15分	【言語活動】 4. 班で調べた内容について共有する。 5. 全体で 1 つずつ真偽の確認を行う。 ※内容が「真」なら○、「偽」なら×を挙げる。 また、その理由を交流する。	「真」か「偽」か、根拠をもとに答え、交流させる。その際に、書籍であればどこに書いてあるか、ネットならばどのサイトに書かれているか、そのサイトの情報は信頼できるかなどを答えられるように説明する。
まとめ 10分	6. 本時の授業での学びを通して、気づいたことや分かったこと、ネットや生成 AI を活用する際の注意点などをまとめる。 7. まとめた内容を交流する。	



図書館活用
ポイント